〔大和本草三金玉土石〕天巧碁子　長州赤間關ノ西北一里、筋ノ濱ト云處ニ、天然ノ碁子ノ五色ナルアリ、人工ニアラズ、又紀州ノ那智ノ黑石モ、爲碁子如人工、

〔倭訓栞中編古〕ごいし　碁石也、白黑ともに紀伊國に出、黑は那智黑と稱せり、○中略又いはく、○山家集答志郡すが島の內に烏崎といふあり、此濱の小石皆黑し、又鷺島もほど近し、又豐後佐賀の關に、黑が濱白が濱とて、黑白をわかちて天然の碁子あり、長門國筋が濱にも然り、○中略古昔は皆自然の石子を用ゐたる成べし、今は黑石をいし、白は海蛤をもて磨琢して造成せり、○中略今唐山舶來の碁子は練成したる物也、雲林石譜には、自然の棋子の事をいへり、南都正倉院所藏の碁子は、珊瑚瑠璃瑪瑙を用ゐて、悉く花鳥の畫あり、

〔常陸國風土記多珂郡〕郡南卅里藻島驛家、東南濱碁子、色如珠玉、所謂常陸國所有麗碁子、唯是濱耳、

〔東大寺續要錄寶藏〕勅封藏開檢目錄　北藏　厨子一脚　納○中略　圍碁石一筒白黑中略○　木地厨子一脚　納○中略　圍碁石六筒白黑中略○　建久四年八月廿五日

〔紫式部日記〕はりまのかみ、○藤原行成ごのまけわざしける日、あからさまにまかで、後にぞ、ごばんのさまなど見給へしかば、けそくなどゆへ〳〵しくして、すはまのほとりの水にかきまぜたり、紀の國の玄ら、の濱に拾ふてふこの石こそは巖ともなれ

〔山家集下雜〕伊せのたうしと申島には、ごいしの玄ろのかぎり侍濱にて、くろはひとつもまじらず、むかひてすがしまと申は、くろのかぎり侍る也、

すがしまやたうしのごいしわけかへてくろ玄ろまぜようたのはまかぜ

さざしまのごいしの白をたかなみのたうしの濱に打よせてけり

からすざぎのはまのごいしと思ふ哉白もまじらぬすがしまの黑

あはせばやさざをからすとごをうたばたうしすがしま黑白の濱